



さんじゅうさんげんどう 三十三間堂は、だれが、なぜ造ったの

たいらのきよもり ごしらかわほうおう た 平清盛が後白河法皇のために建てた

さんじゅうさんげんどう きょうとしひがしまくしちじょう てんだいしゅう てら れんげおういん ほんどう
三十三間堂は、京都市東山区七条にある天台宗のお寺、蓮華王院の本堂のことです。こ
ほんどう れきしじょう じゅうよう たてもん こくほう してい
の本堂は、歴史上、重要な建物で、国宝に指定されています。

へいあんじだい お ねん たいらのきよもり ごしらかわほうおう た
平安時代の終わりごろの1164年、平清盛が、後白河法皇のために建てたものです。

いりもやづく ほんどうないじん はしら はしら ま さんじゅうさんげんどう
入母屋造りの本堂内陣の柱と柱の間が33あることから、「三十三間堂」とよばれて
います。

ほんどう ちゅうおう たんけい ぶっし ぶつぞう つく ひと つく せんじゆかんのんぞう ほんぞん
本堂の中央に湛慶という仏師(仏像を造る人)が造った千手観音像があり、これがご本尊
です。さらに、その左右には、500体ずつの千手観音立像がおかれ、後ろにも1体おかれ
て、全部で1001体の立像がおかれています。

せんじゆかんのん ひとびと まよ すく さと きょうち みちび ねが せんぼん て
千手観音は、人々を迷いから救い、悟りの境地に導くという願いをもち、それを千本の手
あらわ
に表しているのです。

ほんぞん せんじゆかんのんぞう て ほん て せかい すく ちから
ご本尊の千手観音像には、手が40ついています。1本の手が25の世界を救う力をも
っていますから、40の手はその25倍、つまり1000の救う力をもつことになります。
それで千手というわけです。

さんじゅうさんげんどう とお や 三十三間堂の通し矢

さんじゅうさんげんどう さんじゅうさんま なが やく えどじだい ほんどう にし
三十三間堂の三十三間は、長さが約120メートルあります。江戸時代から、本堂の西の
ろうかで、やく さき まと いとお とお や きょうぎ あこな
ろうかで、約120メートル先の的を射通す「通し矢」という競技が行われてきました。
いちちゅうや あいだ や い てきちゅう や かず きそ なが じかん とお まと い
一昼夜の間、矢を射て、的中した矢の数を競うのです。長い時間、しかも遠くの的を射る
わけですから、そうとう たいりよく うでまえ きょうぎ
相当の体力と腕前のいる競技です。(監修・田代 脩)

